

生分解性マルチの効果確認試験



試験品



慣行品



収穫前



収穫前



すき込み後

試験目的

生分解マルチの効果確認

試験作物 及び品種

南瓜(りょうおもい)

試験資材 及び数量(規格)

きえ太郎Z(0.015mm×95cm×400m) 黒

慣行資材

きえ太郎Z(0.015mm×95cm×400m) 透明

栽培方法

定植日
慣行区:6月14日
試験区:6月14日

収穫日
慣行区:9月上旬
試験区:9月上旬

【栽植密度】
畝幅:300cm
株間:70cm

資材使用期間

6月14日～9月末日

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

展張の作業性については特に問題なかった。
すき込み作業においても慣行品と遜色なく行うことができた。
すき込み後のマルチは試験品の方が目立たない。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

慣行品に比べて雑草がかなり少なかった。
生育自体に差はみられなかった。
干ばつの影響も受けず、最終的な収量は去年に比べて増えた。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】 慣行品に比べて雑草が少ない。
【問題点】 価格が高い。

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

慣行品と比べて大きな変わりはない。

(5)促成・抑制効果について

雑草については試験区では抑えられていた。慣行区はマルチが破けてしまっていた部分を確認した。
雨が降った次の日は慣行品に比べてマルチ表面(特に株元)に溜まった雨水の乾きが早かった。

(6)保温効果について

試験品の方が保温力はあるが、生育自体に影響はなかった。

(7)雑草・病害虫の発生について

慣行区と比べて試験区の雑草が少なかった。

モニター感想

慣行区と試験区で生育の差はなく、収量も変わらなかった。
雑草の抑制に関して試験品の方が収穫時期まで雑草を抑えられていたため良かった。
来年度以降も継続して使用したい。

JA担当者の感想(生産資材係 岡本 氏)

雑草の有無に関しては慣行品と比較して収穫時期まで抑えることができた。また、慣行品と比較して収量の差もなく、来年も継続して使っていきたいとってもらえた。他にも気になっている組合員の方もいるため、安価になることを期待したい。

今後の使用について

継続して使用したい。